

子供の宿題と勉強のお手伝いボランティア

鮫島拓登

田中海夢

前澤美月

堤旬平

私たちが提案するボランティアの発表をさせていただきます。

まずは、現状についてです。小学校教員 319 名に聞いた「コロナ禍において学校再開後に生徒間での学力差があったと思うか」聞いたところ、6 割以上の方は「そう思う」と回答しました。また、精神的に不安定な子供の増加についても 64.6%が「そう思う」と回答した。グラフで表すと、こんな感じです。この結果を見て、現状を知り、私たちは解決策を考えました。

私たちが考えるボランティアの目的は子供の学力向上についてです。コロナ禍で対面での授業が受けられない、長期休みの影響で授業の進行スピードについていけない子供たちが多く、勉強から離れていく時間が長いことから、勉強への意欲が持てなくなっていることが現状であると考えられます。

次に、内容についてです。「小学生を対象に宿題や勉強を教える」がコンセプトです。一日 1 時間から 2 時間程度で各々決めていき、教科は英語・国語・算数・理科・社会で、日時は土曜日・日曜日に行く予定です。先生は高校生や大学生、大人などを集めボランティアとして呼びます。

場所は小田急栗平にある LDK といったカフェ・イベントスペースで行います。今回のイベントでは、ワークスペースやレンタルスペースを勉強するときに利用し、保護者はカフェで時間を潰すことができるため、開催場所に適していると思います。

意図として、子供たちに学習しやすい環境を作ることで勉強への意欲向上を狙います。また、学校の教員より年齢が近い学生と直後コミュニケーションすることで精神的安定を狙います。そして、ボランティアに参加する人は教員志望であれば良い経験に繋がります。今後このような活動に参加したと語ることが出来ることから、参加する生徒と、教員どちらにもいい効果が狙えると考えています。

広告方法は、多摩地域の小学校・学習塾に掲示し、配布を行い生徒募集し、高校・大学にボランティア募集として掲示し、先生の募集を行います。これらをポスターで案内します。「多摩の地域密着型ブログサービス“たまりば”というインスタグラムのアカウト」に投稿してもらえばなって思っています。この投稿によりボランティアの認知度と、施設の広告に繋がると考えています。

このボランティアを行うにあたっての課題として、小学生の問題であるため難易度は高くないが、文系の方が理科や算数を教え、説明するのは難しいのではないかと考えていま

す。そのため教科ごと、または分野ごとに先生が必要となり、ボランティアを多く募集しなければならないことが課題です。